

2021年度「人材発掘」入試・
学部3年次生特別入試枠
法学既修者認定試験
2021年度 追試験

刑 法

(問 題)

注 意 事 項

1. 問題冊子、解答用紙および貸与六法は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
2. 問題は2～3頁に記載されています。問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁および汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
3. 下書用紙は一人につき一枚のみ配付します。
4. ラインマーカー、色鉛筆、修正液等は、問題冊子・下書用紙に使用することを許可しますが、解答用紙に使用した場合は、不正行為とみなすことがあります。
5. 貸与六法への書き込みは、不正行為とみなすことがあります。
6. 試験開始の指示の後、解答用紙表紙の所定欄に、受験番号、氏名、問題番号を記入してください。受験番号は正確に間違いに記入してください。読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意してください。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記用具を置いてください。終了の指示に従わず筆記用具を持っていたり解答を続けた場合は、不正行為とみなすことがあります。
8. 試験終了後、問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
10. 解答用紙に記載の注意事項もあわせて確認してください。

問題1 (60点)

以下の〔事例〕を読んで、〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

1. 甲は、Aと2人でキャンプをするために、甲の自動車(以下「甲車」という。)で山中の溪流に出かけた。甲とAは、そこでテントを張って宿泊することにし、夕食にバーベキューをして、持ってきたビールや焼酎をかなりの量飲んだ。
2. 甲とAは、午後10時30分頃、飲酒の影響で眠気を催してテントの中で眠り始めたが、午後11時30分頃、Aが激しい腹痛を訴え始め、何度も嘔吐してテントの中にぐったりと横たわり、身動きをしなくなった。Aの症状の原因は、バーベキューの食材の加熱不足による食中毒であった。甲は、Aの様子に驚き、すぐに誰かに連絡をとろうとしたが、スマートフォンの電波が入らず、周囲にも人家や人の気配は全くなかった。
3. 甲は、このままではAが死亡するかもしれず、自分で甲車を運転してAを病院に運ぶ以外にAを助ける方法はないと考えた。甲は、後部座席にAを乗せて甲車の運転を開始し、最も近い市街地に向けて出発した。翌日午前1時頃、甲車はスマートフォンの電波が入るところまで市街地に近づき、甲も、スマートフォンを確認してそのことを認識した。しかし、甲は、今さら電話で病院に連絡を取ったり、救急車を手配したりするのは面倒だと考えた。また、甲は、運転開始当初からアルコールの影響で眠気を催し、途中で何回か意識が途切れていたため、「運転中にアルコールの影響で眠り込む可能性が高い」と思ったが、そのまま病院に向けて運転を継続することを決意した。午前1時30分頃、甲は、アルコールの影響により運転中に仮睡状態に陥った。
4. 乙は、午前1時30分頃、助手席にBを乗せて自動車(以下「乙車」という。)を運転し、左右の見通しのきかない交差点にさしかかった。同交差点には信号機が設置されており、乙の対面信号は「黄色灯火の点滅」であったため、乙は、同交差点に進入するにあたって徐行(自動車が直ちに停止することができるような速度で進行すること)が必要であったにもかかわらず、時速約30kmの速度を漫然と維持したまま同交差点に進入した。そのとき乙は、左側から、交差道路を時速約60kmの速度で走行して来る甲車を発見したが、急制動が間に合わず、甲車と衝突した。甲は、アルコールの影響で仮睡状態に陥り、意識のない状態で同交差点に進入していた。なお、いずれの道路も指定最高速度は時速30kmであった。
5. 仮に、乙が、同交差点への進入にあたり、時速10km程度にまで減速(徐行)していたとしても、甲車の速度等から考えて、乙の急制動の措置が間に合わず、乙車と甲車との衝突は回避できなかった可能性が高い。
6. 本件衝突の結果、Bが頭部打撲の傷害を負った。なお、Aは、事故の対応のために出動してきた救急車によって病院に搬送され、食中毒の治療を受けることができた。

〔設問〕

甲および乙の罪責を論じなさい(道路交通法違反の点を除く)。

【参照条文】 自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律

(危険運転致死傷)

第二条 次に掲げる行為を行い、よって、人を負傷させた者は十五年以下の懲役に処し、人を死亡させた者は一年以上の有期懲役に処する。

一 アルコール又は薬物の影響により正常な運転が困難な状態で自動車を走行させる行為

(過失運転致死傷)

第五条 自動車の運転上必要な注意を怠り、よって人を死傷させた者は、七年以下の懲役若しくは禁錮又は百万円以下の罰金に処する。ただし、その傷害が軽いときは、情状により、その刑を免除することができる。

問題2の解答は『解答用紙(D)』を使用してください

問題2 (30点)

窃盗罪の実行の着手時期について、具体的な例を複数挙げながら論じなさい。

〔以下余白〕